

# 水稻中生奨励品種 ヒノヒカリ 栽培暦 (平坦地 6月上旬植用)

大阪府環境農林水産総合研究所

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上		
生育ステージ				は出	緑	硬	田	活	分			最	幼	穂	出	穂	登			成				
				種芽	化	化	植	着	げ			高	穂	ば	穂	揃	熟			熟				
生育ステージ				期	期	期	期	期	つ			分	形	ら	期	期	期			期				
										期			げ	成	み									
生育ステージ										つ			期	期										
										期			期	期										
水管理				育 苗			活 着			有効分げつ			無効分げつ			幼穂形成・穂ばらみ			登 熟					
				入水代かき			やや浅水			中干し			間断かんがい			湛水			間断かんがい			落水		
施肥				土 基									穂			穂						土		
				壌 肥									肥			肥						つ		
除草剤							初																	
							中			後														
病害虫防除							箱			葉			穂ニウコ			カヨウ			ウ					
							施			い			いカンブ			メコン			ン					
病害虫防除							用			もち			もメカノ			ムバカ			カ					
										ち			ちイ			シイ								
病害虫防除										ユ			チ											
										ウ			メ											
病害虫防除										イ			イ											
										ガ			ガ											

「ヒノヒカリ」はやや倒伏に弱いので、食味を低下させず病害虫の発生を抑えるために基肥窒素は10aあたり5～6kgを限度とし、できるだけ控えめにする。特に前作野菜の残存養分に注意。穂肥は10aあたり窒素3～4kg以内とし、出穂21日前～10日前にできれば2回に分けて施用する。基肥と穂肥トータルで10aあたり窒素8～10kg以内とする。いもち病には弱いので、特に水の冷たい地域や標高の高い地域では箱施用剤および本田防除を励行すること。籾の休眠が深めで発芽が遅く、苗の伸びも遅いので発芽器の温度に注意する。ただし育苗時の過度の高温による徒長苗には注意する。刈り遅れのないように適期収穫すること。(穂の籾のうち根元の2割程度がまだ帯緑した時期が適期。出穂からおおむね45～50日くらい)